

令和6年度

関西医科大学 大学院医学研究科

修士課程／博士課程

募集要項

関西医科大学 建学の精神

本学は、「慈仁心鏡」、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを建学の精神とする。

関西医科大学 大学の使命

本学は、独創的な知性と豊かな人間性を備え、社会に貢献し得る医療人を育成するとともに、深く医学、看護学及びリハビリテーション学を研究し、広く文化の発展と公共の健康・福祉に寄与することを使命とする。

目次

修士課程

教育の理念	P.1
3つのポリシー	P.1～P.2
試験概要	P.3
受験資格	P.3
試験実施日程	P.4
出願資格審査について	P.4
出願手続	P.5～P.6
選抜方法	P.6～P.7
合格発表	P.7
入学手続	P.7
特別研究科目紹介	P.8～P.10

博士課程

教育の理念	P.11
3つのポリシー	P.12
試験概要	P.13
受験資格	P.13
試験実施日程	P.14
出願資格審査について	P.14
出願手続	P.15～P.16
選抜方法	P.16
合格発表	P.17
入学手続	P.17
研究分野紹介	P.18～P.21

納入金／授業料免除制度等	P.22
その他の制度	P.23

◆ 教育の理念 ◆

関西医科大学大学院医学研究科医科学専攻の修士課程は、医学部医学科以外の出身者を対象に、医学に関連する生命科学の基礎並びに先端医療に関する専門教育を行うことにより、それぞれの出身領域の知識を医療の場へと有機的に結びつけることのできる、これからの医学研究・医療を支える人材を育成することを理念とする。

目 標

- 1) 幅広い知識と技能の修得：医学部医学科以外の修了生を対象に、幅広い医学の基礎知識を基盤として、最先端の医学研究に触れることで、基礎的医学研究能力を養う。
- 2) 高度専門職業人の育成：豊かな人間性と広い学識を併せもち、今後の多様な医学・医療関連分野で活躍できる高度専門職業人を育成する。
- 3) 社会貢献：自らの学修成果をもって、次世代の医学・医療の発展に寄与するとともに、地域社会に貢献する人材を養成する。

◆ アドミッション・ポリシー ◆

本課程は、医学部医学科以外の出身者を対象に、医学に関連する生命科学の基礎並びに先端医療に関する専門教育を行うことにより、それぞれの出身領域の知識を医療の場へと有機的に結びつけることのできる、これからの医学研究・医療を支える人材を育成することを理念としている。本課程の理念を理解し、ディプロマ・ポリシーを達成するために、アドミッション・ポリシーとして次のような学生を求める。

【求める学生像】

1. 他分野の専門知識を多様な医学・医療関連分野で応用しようとする熱意のある人
2. 高度専門職業人として医学・医療関連分野で活躍する意欲のある人
3. 大学卒業程度の知識を有し、自らの学修成果をもって、人類の健康増進と福祉の向上に寄与するとともに、地域社会に貢献する意思のある人

求める学生像に沿った学生を選抜し、カリキュラム・ポリシーに定める課程を修了可能な能力を有しているかを評価するために、入学者選抜の基本方針を次のとおりとする。

【入学者選抜の基本方針】

1. 面接試験により、医学に関連する生命科学に深い関心を持ち、強い熱意、真摯

- な姿勢を評価する。
2. 外国語（英語）試験により、履修を進めるにあたり、情報収集や研究発表に必要な英語能力を評価する。
 3. 専門科目試験により、志望する研究分野における科目の履修に必要な生命科学や統計学等の大学卒業程度の基礎的知識と素養を評価する。

◆カリキュラム・ポリシー◆

医学研究科修士課程では、医学部医学科以外で様々な学問を修得してきた学生が入学してくることから、「学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」に基づき、学生が修得しなければならない以下の教育課程を編成する。

1. 共通科目
 - （大学院総合講義） 研究を進めるにあたって必要な知識を修得するとともに、著名な研究者の講演から、研究に対する姿勢を学ぶ。
 - （医科学概論） 医学に関連する生命科学分野及び臨床医学の基礎的知識を、バランスよく学修する。
 - （医学英語） キャリアを形成するために必要な医学英語およびメディカルコミュニケーションに関する基礎的知識を、学修する。
2. 専門科目
 - （講義科目） 入学時に自らが選択した先端医科学、ゲノム医科学、医用工学の3つの各分野に設定された科目を履修し、多様化する医療ニーズに応えるために必要な専門的知識、技能を修得する。
 - （特別研究科目） 自らの専門領域において、演習、研究・論文作成指導を受けることにより、基礎的な医科学研究を遂行するに足る科学的分析能力と問題解決力を修得する。

◆ディプロマ・ポリシー◆

関西医科大学大学院医学研究科医科学専攻の修士課程を修了し、以下の教育目標を全て満たしたと認められる者に修士（医科学）の学位を授与する。

【先端医科学分野】

1. 幅広い医学の基礎知識と、高い倫理観を身につけている。
2. 高次生命現象を理解し医学研究・医療現場に活用するために必要な専門的知識と技能がある。
3. 自らの専門領域において、研究活動を行うのに必要な科学的分析能力と問題解決力がある。

【ゲノム医科学分野】

1. 幅広い医学の基礎知識と、高い倫理観を身につけている。
2. ゲノム情報を医学研究・医療現場に活用するために必要な専門的知識と技能がある。
3. 自らの専門領域において、研究活動を行うのに必要な科学的分析能力と問題解決力がある。

【医用工学分野】

1. 幅広い医学の基礎知識と、高い倫理観を身につけている。
2. 医療介護分野のニーズに応えるために必要な専門的知識と技能がある。
3. 自らの専門領域において、研究活動を行うのに必要な科学的分析能力と問題解決力がある。

試験概要

試験種別	募集人員
第一次募集(一般入試・社会人入試)	8名
追加募集(一般入試・社会人入試)※	

※第一次募集で定員に達した場合は追加募集は行いません。

受験資格

<一般入試>

- (1) 四年制大学を卒業した者および令和6年3月に卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定による学士の学位を授与された者および令和6年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者および令和6年3月までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者および令和6年3月までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育機関であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者および令和6年3月までに修了見込みの者
- (6) 文部科学大臣が指定した者

以下の者は事前の出願資格審査が必要です。

- (7) 前(1)号に定める大学に3年以上在学した者であって、所定の単位を優秀な成績で修得したと大学院が認めた者
- (8) 外国において学校教育における15年の課程を修了し、所定の単位を優秀な成績で修得したと大学院が認めた者
- (9) 本学大学院において大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めたもので、22歳に達した者（令和6年4月1日までに22歳に達する者も含む。）

<社会人入試>

前(1)～(9)号のいずれかに該当し、且つ、病院、教育・研究機関、官公署、その他民間会社等に在職している者、または入学時に就業が見込まれ、大学院入学後もその身分を有する者。なお、出願にあたっては、在職証明書（本学勤務の者を除く）、及び勤務先の代表者作成の受験許可書（本学勤務者は病院長作成のものであること）を必要とする。また、自営業等で在職証明書が発行できない場合は、職業を有することが確認できる書類を必要とする。

試験実施日程 <一般入試・社会人入試共通>

	第一次募集	追加募集
出願資格審査書類受付期間 * 受験資格(7)～(9)該当者	令和5年7月10日(月)～ 7月21日(金)	令和5年10月10日(火)～ 10月20日(金)
願書受付期間	令和5年7月10日(月)～ 8月4日(金)	令和5年10月10日(火)～ 11月17日(金)
試験期日	令和5年8月19日(土)	令和5年12月2日(土)
合格発表	令和5年9月13日(水)正午	令和6年1月10日(水)正午
入学手続期間	令和5年9月13日(水)～ 9月29日(金)	令和6年1月10日(水)～ 1月26日(金)

※1 受験資格(3ページ)の(1)～(6)に該当する方は出願資格審査は不要です。直接願書をご提出ください。

※2 受験資格(3ページ)の(7)～(9)に該当する方は事前の出願資格審査が必要です。
受審漏れのないようご注意ください。

出願資格審査について 受験資格(7)(8)(9)該当者

出願に先立ち出願資格審査を必要とする者は、下記期間に必要な書類を提出または郵送してください。なお、**郵送時は封筒の表に「出願資格審査書類在中」と朱書き、郵送(書留等)してください。**

・出願資格審査書類受付期間

第一次募集	令和5年 7月10日(月)～ 7月21日(金)
追加募集	令和5年10月10日(火)～10月20日(金)

・出願資格審査書類

審査に必要な書類は、本学ホームページ (<https://www.kmu.ac.jp/juk/>) を参照してください。
指定のないものは様式任意です。

・出願資格審査書類提出先

5ページの「出願手続」の提出先と同様です。

出願手続

(1) 入学願書受付期間

第一次募集：令和5年 7月10日（月）～ 8月 4日（金）

追加募集：令和5年10月10日（火）～11月17日（金）

(2) 提出方法

期日までに、大学院課窓口へ直接提出または郵送してください。なお、郵送時は封筒の表に「出願書類在中」と朱書きし、郵送（書留等）してください。

(3) 提出先

〒573-1010 大阪府枚方市新町2丁目5番1号

関西医科大学医学部事務部大学院課 Tel: 072-804-0101（内線2225）

(4) 提出書類

<一般入試、社会人入試共通>

◎印は全員必須、その他は該当する場合のみ提出が必要です。

◎入学願書	本学所定の様式に記入。入学願書の裏面には、高等学校入学から現在に至るまでの経歴を年次に従い、漏れなく記入すること。
◎受験票・ 受験写真票	本学所定の様式に記入。
◎写真2枚	3ヶ月以内に撮影のもので上半身正面脱帽像に限る。 タテ4.5cm×ヨコ3.5cm以内。裏面に氏名を記入した上で、 上記願書および受験写真票の所定欄に貼付すること。
◎入学検定料	20,000円 ※入学検定料を出願期間内に必ず受験者本人名義で振込ください。 （手数料本人負担） ※振込依頼人名の頭に「INNM」と入力するようにしてください。 （例）「INNM カンサイタロウ」 金融機関 りそな銀行（銀行コード0010） 支店名 守口支店（支店コード211） 預金種別 普通預金 口座番号 4667068 口座名義 学校法人関西医科大学 か） ガク）カンサイイカダ イカク
卒業証明書（大学等） （または卒業見込み 証明書）	出願資格審査で提出済みの者は不要。
成績証明書（大学等）	出願資格審査で提出済みの者は不要。
外国語（英語）試験 免除制度の必要書類	試験のスコアを証する書類（コピー可）。 ただし、出願日から遡って2年以内の結果に限る。

<社会人入試のみ必要>

在職証明書	本学勤務者は不要。自営業等で在職証明書が発行できない場合は、職業を有することが確認できる書類。
受験許可書	本学所定の様式に記入。勤務先の代表者作成のものであること (本学の各附属病院勤務の場合、病院長作成のものであること)。

選抜方法

入学者の選考は、筆記試験（外国語試験、専門科目試験）、個別面接を実施します。

外国語(英語)試験

試験時間：60分

英文の読解力、記述能力を問います。

辞書の使用を許可します。ただし電子辞書は不可。

※外国語(英語)試験免除制度について

次のいずれかの条件を満たしている場合は、外国語(英語)試験の受験を免除します。

ただし、出願日から遡って2年以内の結果に限ります。

免除を受ける者は、出願時に証明する書類を提出してください(コピー可)。

TOEFL iBT 80点以上 / TOEIC 700点以上 / IELTS 6.0以上

専門科目試験

試験時間：80分

生物学、物理学、数学、統計学などから出題します。

試験問題については、本学ホームページ (<https://www.kmu.ac.jp/juk/>) を参照してください。

※過去問題の閲覧について

過去問題の閲覧を希望する場合は事務局(医学部事務部大学院課)までお問合せください。

個別面接

試験時間：一人あたり15分程度

面接官3名で評価します。

試験日・場所等

試験当日は、受験票を持参して下さい。試験時間・試験場所は変更となる可能性があります。

その場合、ホームページにてお知らせするとともに、出願者に案内します。

第一次募集

試験期日	試験科目	試験場所
令和5年8月19日(土)	午前9時15分集合(厳守)	
	午前 9時30分 ～10時30分	外国語(英語) 試験
	午前10時50分 ～午後 0時10分	専門科目試験
	午後 0時20分～	個別面接
		関西医科大学枚方キャンパス 医学部棟2階「第三講義室」

追加募集

試験期日	試験科目	試験場所
令和5年12月2日(土)	午前9時15分集合(厳守)	
	午前 9時30分 ～10時30分	外国語(英語) 試験
	午前10時50分 ～午後 0時10分	専門科目試験
	午後 0時20分～	個別面接
		関西医科大学枚方キャンパス 医学部棟4階「中会議室」

合格発表

第一次募集：令和5年9月13日(水) 正午

追加募集：令和6年1月10日(水) 正午

本学ホームページおよび学内大学院掲示板に掲示するとともに、願書に記入された住所に文書で送付します。

合格者には、入学手続きに必要な書類を同封します。

入学手続

第一次募集：令和5年9月13日(水)～9月29日(金)

追加募集：令和6年1月10日(水)～1月26日(金)

合格者は期間内に手続きを完了してください。手続きに当たっては、22ページ記載の納入金及び書類の提出が必要です。詳細は、合格通知時に同封する書面で確認してください。指定の期日までに入学手続が完了しない時は、入学の意思がないものと判断し、入学を許可しません。

先端医科学分野

教育目標	指導教員名(所属)
生体内に存在する幹・前駆細胞の正常・病態における動態を追跡し、着目した細胞が、いつ・どこで・どんな細胞として機能するかを把握し、その細胞をどうすれば疾患治療に役立てることが可能かについて検証を行う。また、再生可能な動物の自発的再生機構を明らかにし、哺乳類への応用に資する研究を行う。これらの研究について指導を行う。	北田容章 (解剖学講座)
情動や注意、社会的環境などが行動を変化させる神経メカニズムを明らかにするための、実験の計画、遂行、データの解釈、論文執筆について指導を行う。	中村加枝 (生理学講座)
蛋白質科学(構造生物学、生化学など)と神経科学的アプローチにより、蛋白質分子の機能を原子レベルから個体レベルまで解析する。生体における蛋白質分子の生理的及び病態生理的な役割を解明し、「くすり」の標的となる蛋白質分子を制御する化学物質・分子を探索・設計することを旨とする研究について指導を行う。	小林拓也 (医化学講座)
細胞外マトリックスの形成メカニズム、機能、および疾患における役割を分子レベルで明らかにし、新たな組織再生技術開発を目指す研究について指導を行う。	中邨智之 (薬理学講座)
再生医学に関して、最新の知識と研究の動向を学び、再生医学研究の意義を理解する。自ら再生医学研究を立案し、遂行するための基本的技術を習得する。再生医学の実践として、iPS細胞を含む多能性幹細胞から目的とする臓器の細胞へ分化誘導する研究を指導する。疾患特異的iPS細胞を用いた病態解明や新規治療法開発などの研究についても指導を行う。	人見浩史 (iPS・幹細胞再生医学講座)
発生学・神経科学の基礎的および最新の知識を習得し、ヒト多能性幹細胞(ES細胞やiPS細胞)の分化誘導技術・オルガノイド作製技術・イメージング技術・ゲノム編集技術等を駆使しながら、脳を科学的に理解し、神経疾患を中心とする難病の克服を目指した研究の指導を行う。	六車恵子 (iPS・幹細胞応用医学講座)
法科学分野における基礎知識と技能を身につける。この中には、生体成分や薬毒物の微量鑑定、DNA型鑑定に関する基礎知識、基礎技術および機器の操作法の修得を含む。これらの知識・技術を駆使する研究について、企画・遂行・考察・論文作成の技術を学習する。解剖介助の知識及び技術も修得する。	赤根敦 (法医学講座)
血液、呼吸器疾患、膠原病、そして感染症の4つの診療分野をつなぐ、「生体防御・免疫」をキーワードに研究を指導する。この生体防御・免疫を学ぶことにより血液、呼吸器疾患、膠原病、そして感染症それぞれの臨床と基礎をつなぐ研究者の育成を目指す。さらに生体防御・免疫の領域で研究者として将来自立できるだけの幅広く深い専門的知識と、研究に必要な実験のデザインなどの研究手法や研究遂行能力を修得させる。	伊藤量基 (内科学第一講座)
哺乳類の発生における形態形成や神経回路形成機構ならびに、それらの異常によって引き起こされる病態や発達障害に関する研究について指導を行う。	平野伸二 (生物学教室)
本特別研究の出発点は各人が興味を有する臓器や疾患である。臓器再生医療や新しい疾患治療方法、また新しい創薬システムの構築を目指して、基礎情報の収集や分析、そこから導き出される仮説の立案と研究方法について探求し、考察を深める。研究成果を得るためだけでなく、将来を輝かせるために自らをイノベーション(革新)することを目指す。	服部文幸 (iPS・幹細胞再生医学講座)
分子生物学・生化学・生理学・行動学など様々な研究手法を駆使して、外界からの刺激に対して哺乳類の脳が適切な情動やそれに伴う行動および生理応答を誘発するメカニズムを解明するとともに、情動や生理応答を望ましく制御する新たな医療技術の開発を目指す研究を行う。	小早川令子 (附属生命医学研究所神経機能部門)
がんの増殖、転移、薬剤耐性などの悪性化メカニズムについて分子レベルの解析からマウス個体、臨床検体を用いた解析まで一連の解析を行うために必要な知識・技術の習得を目指す。加えて、がん細胞・間質細胞相互作用のネットワーク解析や公共データベースを用いた遺伝学的解析を通じて、がんを俯瞰的に理解する研究についての指導も行う。	坂本毅治 (附属生命医学研究所がん生物学部門)
光免疫療法のさらなる発展のために、光免疫療法に適した新規標的分子の探索、標的分子に対する光免疫療法用薬剤の設計・作製、光免疫療法用薬剤の基礎的評価を包括的に行うことで、光免疫療法用の新規薬剤を開発することを目指す研究について指導を行う。	花岡宏史 (附属光免疫医学研究所基盤開発部門)
感染症、がん、アルツハイマー病などの疾患に対する免疫療法のイノベーションは今後、社会で期待される研究分野である。治療抗体探索をはじめ、感染症及び非感染症にかかわらず、さまざまな疾患に対するワクチン開発を推進する。この研究・開発分野の根幹となる免疫記憶誘導・維持の分子、細胞、個体レベルでの理解を目指し、研究指導を行う。	福山英啓 (附属光免疫医学研究所免疫部門)
腫瘍病理学の基礎的研究について、患者病理組織およびモデル動物使用組織や細胞を材料として、悪性腫瘍の分子生物学的・組織学的特徴の解析の基礎を学び、これを応用し分子病理学的側面から未知の腫瘍の基礎的な性状の発見にアプローチする。	近藤英作 (附属光免疫医学研究所腫瘍病理学部門)

教育目標	指導教員名(所属)
消化器外科領域における、手術侵襲作用機構の解明、また侵襲軽減効果の検討、各種癌治療における癌転移進展メカニズムの解明、および手術療法と DDS を含めた化学療法やウイルス療法開発を目指す研究について指導を行う。	海堀昌樹 (外科学講座)
臨床に直結した研究テーマに対して、臨床検体を用いて治療法の確立や病態解明を行う過程を学習し、新規知見を英文にまとめて世界に発信することができる研究者の育成を目指す。国内ならびに海外の施設との共同研究を通じて、質の高い臨床研究の立案・計画・実施・解析・論文作成を行う。	里井壮平 (外科学講座)
分子生物学や病理学的な手技をもとに、乳がん免疫微小環境における腫瘍と免疫細胞の相互作用を解明する。また、これらの基礎研究から得られた知見をもとに臨床応用をめざした橋渡し研究を立案・計画・実施できる医科学研究者の育成を目指す。	杉江知治 (外科学講座)
検体検査および生理機能検査などの臨床検査医学における基礎研究力を遂行する知識と技術を取得し、新規バイオマーカー、診断法、検査機器の開発、特許取得を目指す。	神田晃 (附属病院臨床検査医学センター)
細胞内シグナル伝達の視点から、免疫担当細胞の分化過程ならびに機能発現の分子基盤解明を目指す。また、これら基礎研究から得られた知見に基づき、難治性免疫疾患を標的とした新規の免疫制御技術の開発に取り組む。	松田達志 (附属生命医学研究所生体情報部門)
ゲノム編集技術を用いた研究手法を駆使して、疾患の分子メカニズムの解明や新しい治療法の開発に関する研究の指導を行う。	徳弘圭造 (附属生命医学研究所ゲノム編集部門)
動物の福祉向上および実験動物における種々の疾病の診断・治療・予防に関する知識を習得し、問題解決に応用できる能力を養う。また発牛工学技術を駆使した遺伝子改変動物や疾患モデル動物の作製を理解し、その分子生物学的、生理学または病理学等の解析について精通した研究者の育成を目指す。	李成一 (附属生命医学研究所モデル動物部門)
生体機能や疾患の発症と関わり深い酸素代謝制御および酸化ストレス応答機構に関する研究を指導する。炎症や代謝性疾患の病態生理を理解し、治療標的の創出や診断法開発に繋がる技術的・理論的基盤の構築を目指す。	松尾禎之 (附属生命医学研究所侵襲反応制御部門)

ゲノム医学分野

教育目標	指導教員名(所属)
臨床現場におけるがんゲノム医療の遺伝子情報源は手術や生検の手技で採取された後にホルマリン固定、パラフィン包埋切片 (FFPE) が大多数を占める。最適な FFPE を作製するには固定前、固定、固定後工程で様々な影響因子を理解する必要がある。DNA の断片化率等を指標として各工程の最適解を理解し遺伝子診断用サンプル作製工程に精通した研究者の育成を目指す。	蔦幸治 (病理学講座)
疫学を用いて、人の健康に影響する種々の要因を分析し、その中から利する要因と害する要因を特定し、前者を増強し、後者を減弱させるための対策とその評価を行う。具体的には、人を対象とした大規模疫学調査のデータや比較的小規模な臨床データ等の取扱いを通して、研究倫理・統計解析・結果の解釈・論文執筆の技術についての研究指導を行う。	甲田勝康 (衛生・公衆衛生学講座)
メンデル型遺伝病や多因子性疾患の発症や予後に関連する遺伝的な因子を探索する研究についての指導を行う。	日笠幸一郎 (附属生命医学研究所ゲノム解析部門)
悪性腫瘍、特に胸部腫瘍に対する薬物治療に焦点をあてた研究を行う。基礎的研究としては悪性腫瘍のゲノム解析を実施し、薬物治療の効果との関連や有害事象の予測などを検討する。	倉田宝保 (呼吸器腫瘍内科学講座)
遺伝統計学やゲノム解析の知識と技術を駆使して、大規模なゲノム医療情報から疾患に関連する遺伝的要因を特定する研究を指導する。また、そのような遺伝的要因が人類にもたらされた進化的背景を考慮するなど、多角的な視点を持った人材の育成を目指す。	安河内彦輝 (附属生命医学研究所ゲノム解析部門)

医用工学分野

教育目標	指導教員名(所属)
これまでの電気生理学検査では刺激や記録が困難であった深部末梢神経や脊髄の機能を測定するため、新たに開発された超伝導量子干渉素子 (SQUID) 磁気センサーを用いた神経機能測定法を導入し、さまざまな疾患への応用を研究する。	齋藤貴徳 (整形外科学講座)
活動の障害 (activity disorders) に関わる病態を理解し、機能評価を通して広がりハビリテーション治療のあり方を把握し、人間工学的なアプローチを通じて生活に関わる問題を解決する方略を創生できる研究者の育成を目指す。	長谷公隆 (リハビリテーション医学講座)
生体計測装置や運動状態を計測する装置を用いて生体信号を収集し、現象をモデル化して数理的な解析を行うことで、生体现象の解明を目指した研究を実施する。研究課題としては、数理モデルの構築やデータ解析などを主とし、近年多様化する生物統計学についても研究対象とする。	北脇知己 (数学教室)
ヘルスケアを運動、栄養、心理などの臨床医学のみならず行動科学、医用工学も含めて理解する。またMBA的要素としてのマーケティング、企業連携などのビジネス戦略、イノベーション思考、実践まで幅広い能力、ネットワーク構築の修得を目指す。	木村穰 (附属病院健康科学センター)
数百 eV ~ 数十 keV のX線を用いたイメージング、マイクロ X 線CT、X 線吸収微細構造分析などの手法を用い、生命現象を様々な視点から計測・観察するための新しい手法の開発に関する研究を行う。細胞から個体および医療材料までを対象とし、X線と物質の相互作用を理解し、開発研究できる研究者・技術者の育成を目指す。	楠本邦子 (物理学教室)

◆ 教育の理念 ◆

関西医科大学大学院医学研究科医学専攻の博士課程は、基礎医学・社会医学・臨床医学系を融合した高度に専門的な研究分野において、医学に関する基礎生命科学の基礎理論並びに先端医療への応用を学習・研究することにより、医学研究者として自立し国際的に研究活動を行うに必要な高度の研究能力と、指導的立場たるにふさわしい豊かな学識および人間性を養うことを理念とする。

目 標

- 1) 医学研究の推進：世界的研究拠点を形成して生命現象の真理を探究し、世界的水準となる医学研究成果を創出する。
- 2) 医学研究者の育成：国際的視野に立って独創的な研究活動を行い、後進を指導する能力、豊かな人間性と広い学識を併せもつ優れた医学研究者を育成する。
- 3) 高度専門職医療人の育成：高度かつ専門的な医療知識・技術を修得し、診療に根ざした臨床研究を展開する能力をもつ指導的医療人を育成する。
- 4) 社会貢献：基礎医学・社会医学・臨床医学研究の成果を医療等に応用し、人類の健康増進と福祉向上に寄与するとともに、知的財産として活用し、以て一般社会に還元する。

◆アドミッション・ポリシー◆

1. 世界的な医学研究成果を創出しようとする熱意のある人
2. 優れた医学研究者として活躍する意欲と先駆的な研究活動を志す人
3. 指導的医療人として医学分野で活躍する意欲のある人
4. 医学研究の成果を応用し、人類の健康増進と福祉の向上に寄与する意思のある人

◆カリキュラム・ポリシー◆

1. 各研究分野において個別の研究指導を受けるリサーチワークに加えて、研究分野の垣根を越えて幅広く医学研究に必要な知識と技術を身につけるコースワークで構成する。
2. コースワークでは、医学研究を行うに当たって必須の知識を共通コースで学ぶ他に、4つある選択必修コースのいずれかに参加することにより、定期的なコースミーティングとリトリート（合宿）を通じて視野を広げ、研究発表の指導を受ける。
3. 3年次に各選択必修コースにおいて大学院生中間発表会を開催し、学位取得に向けてコース参加教員からのチェックと指導を受ける。
4. 企画セミナー、大学院講座で国内外の著名な研究者による講演を受講する。
5. 充実した学内共同研究施設を使いこなすために、利用講習会と各種研究技術の研究技術シリーズを受講する。

◆ディプロマ・ポリシー◆

関西医科大学大学院医学研究科医学専攻の博士課程を修了し、以下の教育目標を全て満たしたと認められる者に博士（医学）の学位を授与する。

1. 高度な情報収集・分析能力があり、科学的態度に基づいてデータを解釈できる。
2. 医学における幅広い学識と、高い倫理観を身につけている。
3. 自らの専門領域において、自立して研究活動を行うのに必要な専門的知識と研究能力がある。
4. 研究成果を論文として発表し、グローバルに情報発信ができる。

試験概要

試験種別	募集人員
第一次募集(一般入試・社会人入試)	50名
第一次募集(外国人入試)※1	
追加募集(一般入試・社会人入試)※2	

※1 外国人入試の詳細は本学ホームページ (<https://www.kmu.ac.jp/juk/>) を参照してください。

※2 第一次募集で定員に達した場合は追加募集は行いません。

受験資格

<一般入試>

- (1) 大学(医学、歯学、修業年限6年の獣医学又は薬学を履修する課程)を卒業した者および令和6年3月に卒業見込みの者
- (2) 外国において、学校教育における18年の課程(最終の課程は医学、歯学、獣医学又は薬学)を修了した者および令和6年3月までに修了見込みの者。ただし、最終の課程が6年制である場合は、18年未満でも認める。
- (3) 防衛医科大学校を卒業した者
- (4) 大学院研究科修士課程を修了した者および令和6年3月までに修了見込みの者

以下の者は事前の出願資格審査が必要です。

- (5) 大学(医学、歯学、修業年限6年の獣医学又は薬学を履修する課程を除く。)を卒業し、または外国において学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、本大学院において、当該研究の成果等により、大学の医学、歯学、修業年限6年の獣医学または薬学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者
- (6) その他、本大学院において、大学(医学、歯学、修業年限6年の獣医学または薬学を履修する課程)を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者(令和6年4月1日までに24歳に達する者も含む。)

<社会人入試>

前(1)～(6)号のいずれかに該当し、且つ、病院、教育・研究機関、官公署、その他民間会社等に在職している者、または入学時に就業が見込まれ、大学院入学後もその身分を有する者(入学時点で臨床研修2年目となる者も可)。なお、出願にあたっては、在職証明書(本学勤務の医師を除く)、及び所属長作成の受験許可書(本学勤務者は病院長作成のものであること)が必要です。また、開業医等で在職証明書が発行できない場合は、職業を有することが確認できる書類が必要です。

<その他>

前(2)号及び第(5)号に定める外国における学校教育は、当該外国の政府または関係機関の認証を受けた者による評価を受けたものまたはこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものを受けた外国の学校が授与し、かつ、(2)号による者は最終の課程の修業年限が5年以上、(5)号による者は最終の課程の修業年限が3年以上の課程を修了した者も含む。

試験実施日程

< 一般入試・社会人入試共通 >

	第一次募集	追加募集
出願資格審査書類受付期間 * 受験資格(5)～(6)該当者	令和5年10月10日(火)～ 10月20日(金)	令和5年12月18日(月)～ 12月28日(木)
願書受付期間	令和5年10月10日(火)～ 11月17日(金)	令和5年12月18日(月)～ 令和6年1月24日(水)
試験期日	令和5年12月2日(土)	令和6年2月3日(土)
合格発表	令和6年1月10日(水) 正午	令和6年2月22日(木) 正午
入学手続期間	令和6年1月10日(水)～ 1月26日(金)	令和6年2月22日(木)～ 3月1日(金)

※1 受験資格(13ページ)の(1)～(4)に該当する方は出願資格審査は不要です。直接願書をご提出ください。

※2 受験資格(13ページ)の(5)～(6)に該当する方は事前の出願資格審査が必要です。
受審漏れのないようご注意ください。

出願資格審査について 受験資格(5)(6)該当者

出願に先立ち出願資格審査を必要とする者は、下記期間に必要な書類を提出または郵送してください。なお、**郵送時は封筒の表に「出願資格審査書類在中」と朱書き、郵送(書留等)してください。**

・ 出願資格審査書類受付期間

第一次募集	令和5年10月10日(火)～ 令和5年10月20日(金)
追加募集	令和5年12月18日(月)～ 令和5年12月28日(木)

・ 出願資格審査書類

審査に必要な書類は、本学ホームページ (<https://www.kmu.ac.jp/juk/>) を参照してください。
指定のないものは様式任意です。

・ 出願資格審査書類提出先

5ページの「出願手続」の提出先と同様です。

出願手続

(1) 入学願書受付期間

第一次募集：令和5年10月10日（火）～11月17日（金）

追加募集：令和5年12月18日（月）～令和6年1月24日（水）

(2) 提出方法

期日までに、大学院課窓口へ直接提出または郵送してください。なお、郵送時は封筒の表に「出願書類在中」と朱書きし、郵送（書留等）してください。

(3) 提出先

〒573-1010 大阪府枚方市新町2丁目5番1号

関西医科大学医学部事務部大学院課 Tel: 072-804-0101（内線2225）

(4) 提出書類

<一般入試、社会人入試共通>

◎印は全員必須、その他は該当する場合のみ提出が必要です。

◎入学願書	本学所定の様式に記入。入学願書の裏面には、高等学校入学から現在に至るまでの経歴を年次に従い、漏れなく記入すること。
◎受験票・受験写真票	本学所定の様式に記入。
◎写真2枚	3ヶ月以内に撮影のもので上半身正面脱帽像に限る。タテ4.5cm×ヨコ3.5cm以内。裏面に氏名を記入した上で、上記願書および受験写真票の所定欄に貼付すること。
◎入学検定料	20,000円 ※入学検定料を出願期間内に必ず受験者本人名義で振込ください。 （手数料本人負担） ※振込依頼人名の頭に「INND」と入力するようにしてください。 （例）「INND カンサイカウ」 金融機関 りそな銀行（銀行コード0010） 支店名 守口支店（支店コード211） 預金種別 普通預金 口座番号 4667068 口座名義 学校法人関西医科大学 か） ガク)カンサイカダゲイガク
卒業証明書（大学等） （または卒業見込み証明書）	本学卒業者、および出願資格審査で提出済みの者は不要。
修了証明書（大学院等）	大学院修士課程修了者の場合は提出のこと。 但し、本学修了者、および出願資格審査で提出済みの者は不要。
医師免許証、 歯科医師免許証の写	医師、歯科医師の資格を有する者は提出のこと。
外国語（英語）試験 免除制度の必要書類	試験のスコアを証する書類（コピー可）。 ただし、出願日から遡って2年以内の結果に限る。

<社会人入試のみ必要>

在職証明書	本学勤務者は不要。開業医等で在職証明書が発行できない場合は、職業を有することが確認できる書類。
受験許可書	本学所定の様式に記入。勤務先の代表者作成のものであること (本学の各附属病院勤務の場合、病院長作成のものであること)。

選抜方法

入学者の選考は、学力試験（外国語試験、研究分野別試験）を実施します。

外国語(英語)試験

試験時間：150分

英文の読解力、記述能力を問います。

辞書(医学専門用語辞典可)の使用を許可します。ただし電子辞書は不可。

※外国語(英語)試験免除制度について

次のいずれかの条件を満たしている場合は、外国語(英語)試験の受験を免除します。

ただし、出願日から遡って2年以内の結果に限ります。

免除を受ける者は、出願時に証明する書類を提出してください(コピー可)。

TOEFL iBT 80点以上 / TOEIC 700点以上 / IELTS 6.0以上

※過去問題の閲覧について

過去問題の閲覧を希望する場合は事務局(医学部事務部大学院課)までお問合せください。

研究分野別試験

入学を希望する研究分野が出題する試験で、専門知識等を問います。

試験日・場所等

試験当日は、受験票を持参し、午前9時15分までに試験場所に集合してください。(厳守)

第一次募集

試験期日		試験科目	試験場所
令和5年12月2日(土)	午前9時30分 ～12時	外国語(英語) 試験	関西医科大学枚方キャンパス 医学部棟2階「第三講義室」
	午後	研究分野別試験	当日通知

追加募集

試験期日		試験科目	試験場所
令和6年 2月3日(土)	午前9時30分 ～12時	外国語(英語) 試験	関西医科大学枚方キャンパス 医学部棟1階「試験・実習室」
	午後	研究分野別試験	当日通知

合格発表

第一次募集：令和6年 1月10日（水）正午

追加募集：令和6年 2月22日（木）正午

本学ホームページおよび学内大学院掲示板に掲示するとともに、願書に記入された住所に文書で送付します。
合格者には、入学手続に必要な書類を同封します。

入学手続

第一次募集：令和6年 1月10日（水）～1月26日（金）

追加募集：令和6年 2月22日（木）～3月 1日（金）

合格者は期間内に手続きを完了してください。手続きに当たっては、22ページ記載の納入金及び書類の提出が必要です。詳細は、合格通知時に同封する書面で確認してください。指定の期日までに入学手続が完了しない時は、入学の意思がないものと判断し、入学を許可しません。

研究分野

研究分野名	教育目標	講座・部門等
機能形態学・再生生物学	形態学を中心とした研究法の理論と実際を学び、研究に必要なデータの収集および分析を通じて、実験結果を正しく解釈することのできる能力や自主的に実験計画を立案・遂行可能な研究者の育成を目指す。	解剖学講座
認知脳科学	脳の構造と機能の基礎を理解し、ヒトや動物を用いた神経生理学的実験を通して、知覚・運動や記憶・学習等の認知機能の神経基盤を明らかにする。自主的に実験計画を立案でき、研究に必要なデータの収集および分析を行うことができる研究者の育成を目指す。	生理学講座
生体分子構造機能学	ヒトの営みのもととなる生命原理を理解した上で、真理を深く探究するために、重要かつ未知なる課題を抽出し、実験により結論を導くことができる研究者の育成を目指す。	医化学講座
分子薬理学・細胞外マトリックス医学	分子生物学・細胞生物学的手法、遺伝子改変動物の作成と使用について精通し、疾患を分子レベルで考察できる医師、自ら研究を立案・遂行できる医学研究者の育成を目指す。	薬理学講座
臨床病理学	正常組織の恒常性の維持、各種疾患の発生・進展の分子病態のメカニズムを免疫組織学的手法や分子生物学的な手法を用いることで、病因の解明や治療効果予測因子、分子標的薬の開発といったような、医学の発達に貢献できるような研究者の育成を目指す。	病理学講座
ウイルス腫瘍学	ウイルス感染を介した新興・再興感染症の細胞レベルおよび個体レベルでの発症機構や、宿主生体防御機構との相互作用の解析を通じて、研究に必要なデータの収集と分析の方法を訓練し、自主的に実験計画を立案できる研究者の育成を目指す。	微生物学講座
幹細胞再生医学	再生医学に関して、最新の知識と研究の動向を学び、再生医学研究の意義を理解する。自ら再生医学研究を立案し、遂行するための基本的技術を習得する。再生医療における独創的な研究を進展させることができる広い視点を持ち、医学の発展に寄与することができる研究者の育成を目指す。	iPS・幹細胞再生医学講座
イノベーション再生医学	深い洞察力と豊かな発想力を磨き、独自性と先進性を兼ね備えた研究者の育成を目指す。	iPS・幹細胞再生医学講座
脳発生・形成学	発生学・神経科学の基礎的および最新の知識を習得し、ヒト多能性幹細胞（iPS細胞など）の分化誘導技術・イメージング技術・定量的解析技術等を駆使しながら、脳を科学的に理解し、神経疾患を中心とする難病の克服を目指した研究を推進できる人材を育成する。	iPS・幹細胞応用医学講座
公衆衛生学・国際保健学	公衆衛生学の広範囲な分野から感染予防医学、熱帯医学、国際保健学、高齢者介護について、人びとの健康被害や健康予防、健康管理を理解し、フィールド調査や実験を通して現状を把握し、研究に必要なデータの収集および分析を行い、自主的に実験計画を立案できる研究者の育成を目指す。	衛生・公衆衛生学講座
分子細胞生物学	当研究分野はバイオテクノロジーの知識と手技を用いて主に基礎医学の領域での研究を遂行することで、細胞生物学と遺伝子工学の基本的原理を理解し、研究に必要なデータの収集および分析を行い、自主的に実験計画を立案できる研究者の育成を目的とする。	衛生・公衆衛生学講座
疫学・予防医学	人の健康に影響する種々の要因を分析し、その中から利する要因と害する要因を特定し、前者を増強し、後者を減弱させるための対策とその評価の方法を修得する。	衛生・公衆衛生学講座
法医学	法病理学、法中毒学、法遺伝学、生命倫理学の概念と社会貢献の意義を理解し、いずれかの分野の研究を通して法医学鑑定の精度、証拠能力、限界、将来性を把握し、自主的に研究を立案して実験データの収集および分析を行い、研究成果を法医学鑑定実務へ応用できる研究者の育成を目指す。	法医学講座
分子免疫学	免疫学の基礎的および最新の知識を学び、免疫学の基本的解析手法、分子生物学・細胞生物学的手法、様々なイメージング手法、疾患モデルマウスの開発等を用いて、免疫システムの分子的基盤および免疫疾患を解析し、病因・病態・治療法について理解を深める。	附属生命医学研究所 分子遺伝学部門
細胞情報学	免疫系の生理と病理を理解し、シグナル伝達の視点から、分子レベルで免疫病態の制御法開発に取り組める研究者の育成を目指す。	附属生命医学研究所 生体情報部門
実験動物医学	動物の福祉向上および実験動物における種々の疾病の診断・治療・予防に関する知識を習得し、問題解決に応用できる能力を養う。また発生工学技術を駆使した遺伝子改変動物や疾患モデル動物の作製を理解し、その分子生物学的、生理学・免疫学または病理学等の解析について精通した研究者の育成を目指す。	附属生命医学研究所 モデル動物部門

研究分野名	教育目標	講座・部門等
神経機能学	分子生物学、生化学、生理学、イメージング、行動学を含む最先端の研究技術を習得し、これらを組み合わせて研究を実施する能力を獲得する。疾患の原因を分子レベルで理解し、新たな治療技術の創出につながる研究を自ら立案し実践する能力を獲得する。	附属生命医学研究所 神経機能部門
ゲノム医学	統計遺伝・生命情報学の知識および最先端のゲノム解析技能を習得し、ゲノム医学研究を主導あるいは支援できる人材を育成する。	附属生命医学研究所 ゲノム解析部門
ゲノム工学	細胞生物学と分子生物学の知識および最先端の遺伝子工学を習得し、それらの手法を用いて生命現象の分子メカニズムの解明や遺伝子疾患の革新的治療法の開発を主導できる研究者を育成する。	附属生命医学研究所 ゲノム編集部門
がん生物学	分子生物学、細胞生物学、実験病理学、基礎的なバイオインフォマティクスの研究手法を習得し、がんという複雑系を分子から個体レベルまで研究することが出来る人材の育成を目指す。	附属生命医学研究所 がん生物学部門
光免疫治療学	光免疫療法に適した新規標的分子の探索、標的分子に対する光免疫療法用薬剤の設計・作製、光免疫療法用薬剤の基礎的評価を包括的に行うことで、疾患に対する新規薬剤の開発手法について習得する。	附属光免疫医学研究所 基盤開発部門
免疫学	分子生物学、生化学、ウイルス学、免疫学的手法を用いて、さまざまな疾患の治療抗体探索、ワクチン開発の研究を行う。良い科学的な疑問を起点に、新たな研究分野を独自で開発できる人材を育成する。	附属光免疫医学研究所 免疫部門
腫瘍病理学	腫瘍病理学研究、がん分子標的医学研究について、患者病理組織およびモデル動物使用組織や細胞を材料として、悪性腫瘍の分子生物学的・組織学的特徴の解析を総合的に行い、患者医療に応用可能な新たながん診断マーカー・治療標的分子を見出す。	附属光免疫医学研究所 腫瘍病理学部門
血液・呼吸器・膠原病・感染症内科学	当講座は、血液、膠原病、そして呼吸器・感染症の3つの診療分野を担当している。大学院での研究はこれら分野をつなぐ、生体防御・免疫をキーワードに研究テーマとしている。この生体防御・免疫を学ぶことにより血液、膠原病、そして呼吸器・感染症それぞれの臨床へのより深い理解を促し、基礎的知識を持った臨床医としての熟成と、第一線で臨床と基礎をつなぐ研究を行う研究者の育成を目指す。さらに生体防御・免疫の領域で研究者として将来自立できるだけの幅広く深い専門的知識と、研究に必要な実験のデザインなどの研究手法や研究遂行能力を修得させる。	内科学第一講座
循環器・腎・内分泌代謝内科学	循環器・腎臓・内分泌代謝領域に関連する研究テーマを設定し、データを収集・解析して学術論文として発表することにより、独立した研究者として必要な能力・資質を身につけることを目標とする。	内科学第二講座
内分泌代謝病学	糖代謝の分子生物学的基盤と甲状腺ホルモン作用発現機構を理解し、研究に必要なデータの収集及び分析を行い、自主的に実験計画を立案できる研究者の育成を目指す。	内科学第二講座
臨床不整脈学	不整脈に対する治療を臨床の現場で実践しつつ、その未解決な問題を明らかにし、これらを研究テーマとして必要なデータの収集および分析を行い、自主的に臨床研究ができる研究者の育成を目指す。	内科学第二講座
消化器内科学	大学における2・3学期研修、教育病院にて広く一般消化器内科を研修する中で興味を持った領域に関する研究テーマを設定し、各人のテーマに必要な実験計画を立案し研究を通じて得られたデータを解析し論文としてまとめることで、医学研究の方法を習得し臨床医としての素養を身につけ研究者としても独り立ちできることを目標とする。	内科学第三講座
呼吸器腫瘍内科学	悪性腫瘍の特徴とその治療体系や予後を理解し、予後改善に向け必要な研究課題について把握し、研究に必要なデータの収集および分析を行い、自主的に実験計画あるいは臨床試験計画を立案できる研究者の育成を目指す。	呼吸器腫瘍 内科学講座
心身医学	心理社会面の身体病や身体症状への影響、身体病の心理社会面への影響を理解し、心身の相関を科学的に検討する方法を広く把握した上で、研究テーマに沿って、研究計画を立案・実行できる研究者の育成を目指す。	心療内科学講座
臨床神経学	神経・筋疾患の理解を深めるために、広く分子生物学、生化学、遺伝学、神経解剖学、神経生理学、神経病理学などを学習すること。そのためには科学研究の基礎を体得することが必須である。すなわち、現状の問題点を抽出すること。それを解決するための方策あるいは仮説を立てること、それを検証するための研究計画を立案すること、自ら研究を実行して、その結果の解析から問題点の解決にいたる、あるいは新規の情報を見出すこと。	神経内科学講座

研究分野名	教育目標	講座・部門等
精神神経科学	日々の精神科臨床で感じた疑問 (Clinical Question) を自主的に解明し、その結果を広く発信し、精神科診療の改善に貢献できる研究者の育成を目指す。	精神神経科学講座
発達小児科学	小児の成長と発達の特性、およびそれらに異常をきたす既存の疾患の病態・病因や治療法について把握し、病因の不明な疾患の研究を行うために必要なデータの収集および分析を行い、自主的に実験計画を立案できる研究者の育成を目指す。	小児科学講座
外科学	外科全般における診断、病態生理ならびに治療法を理解し、研究に必要なデータの収集および分析を行い、自主的に実験計画を立案できる研究者の育成を目指す。	外科学講座
肝臓外科学	肝臓外科における診断、病態生理ならびに治療法を理解し、学術論文、学術集会や大学院講義を通じて広く外科学について把握し、研究に必要なデータの収集および分析を行い、自主的に実験計画を立案できる研究者の育成を目指す。	外科学講座
胆膵外科学	臨床に直結した研究テーマに対して、臨床検体を用いて治療法の確立や病態解明を行う過程を学習し、新規知見を英文にまとめて世界に発信することができる研究者の育成を目指す。国内ならびに海外の施設との共同研究を通じて、質の高い臨床研究の立案・計画・実施・解析・論文作成を行い、胆膵外科医としての将来を開拓する。	外科学講座
乳腺外科学	乳癌の臨床病理を理解し、乳癌の病態の解明と特性にもとづいた個別化治療法の開発を行うことのできる臨床研究医の育成を目指す。	外科学講座
小児外科学	リサーチマインドを持った小児外科医育成を目標に、診療に根ざした基礎および臨床研究を指導・推進し、国内のみならず世界に発信できる人材を育てる。	外科学講座
心臓血管外科学	心臓血管外科における診断法、外科治療法、術後管理について広く把握し、研究に必要なデータの収集および分析を行い、自主的に実験、研究計画を立案できる研究者の育成を目指す。	心臓血管外科学講座
血管外科学	血管外科学全般において高い知識と見識をもち、臨床および研究の分野でリーダーとなれる人材を育てる。	心臓血管外科学講座
呼吸器外科学	呼吸器外科学における診断法、外科治療法、術後管理について広く把握し、研究に必要なデータの収集および分析を行い、自主的に実験や研究計画を立案できる研究者の育成を目指す。	呼吸器外科学講座
脳神経病態治療学	既存の脳神経外科領域疾患の病態を理解し、学会活動、文献渉猟をとおして自主的に未解決の病態を抽出して、それらを解決するための研究に必要なデータの収集、分析をおこない、実験計画を立案できる研究者の育成を目指す。	脳神経外科学講座
整形外科学	運動器の構造と機能を理解し、基礎研究と臨床研究を通して幅広く整形外科疾患について把握し、研究に必要なデータの収集および分析を行い、自主的に実験計画を立案できる研究者の育成を目指す。	整形外科学講座
リハビリテーション医学	活動の障害 (activity disorders) に関わる病態を理解し、機能評価を通して広くリハビリテーション治療のあり方を把握し、研究に必要なデータの収集および分析を行い、自主的に実験計画を立案できる研究者の育成を目指す。	リハビリテーション医学講座
形成外科学	医学の基礎を理解し、形成外科学における形成再建の探求と応用に繋がる先進的かつ理想的医療への展開を念頭に自ら研究テーマの設定や実験計画を立案でき、自主的に研究に必要なデータを収集、分析を進め、指導者や他の研究者とディスカッションを進めることのできる研究者の育成を目指す。	形成外科学講座
皮膚科学	基礎的および臨床研究を通じて、皮膚疾患の病態を理解し、発症機構の解明や新規治療薬の開発につながる研究を目指す。また、皮膚科診療に役立つように基礎的知識に基づいた考え方を習得する。	皮膚科学講座
腎泌尿器外科学	副腎、腎、尿路性器に発生する疾患の特性について、包括的に理解する。さらにその発症メカニズム、標準治療、新規治療薬、新規低侵襲治療、outcome の予測因子など、どのような問題が未解決であるか抽出し、それらの問題を解決するための研究計画を立案する。実験データあるいは臨床データを適切に蓄積・保存し、仮説を立証するための解析を行う。さらにそれらのデータを論文化する。	腎泌尿器外科学講座
眼視覚学	実験または臨床研究を通して広く視覚器について把握し、研究に必要なデータの収集および分析を行い、自主的に実験計画を立案できる研究者の育成を目指す。	眼科学講座
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学領域ならびにアレルギー学・免疫学を理解し、臨床サンプルや疾患マウスモデルを通じて広く疾患形成のメカニズムについて把握する。研究に必要なデータの収集および解析をおこない、自主的に実験計画を立案することが出来る能力を養う。また、研究で習得した知識、技術、理論的思考力を臨床にフィードバックし、疾患の解明と新しい治療戦略を開発することが出来る臨床研究医の育成を目指す。	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座

研究分野名	教育目標	講座・部門等
放射線科学	医学における放射線の役割を理解し、臨床および基礎医学を通じて広く放射線について把握し、研究に必要なデータの収集および分析を行い、自主的に実験計画を立案できる研究者の育成を目指す。	放射線科学講座
放射線腫瘍学	がんを対象とする腫瘍学分野における放射線治療の臨床的・生物学的・物理的な研究を行う。自ら課題を見出し、科学的洞察に基づいた独自の研究を立案・遂行できる研究者育成を目指す。	放射線科学講座
産科学・婦人科学	産婦人科領域に関する生理的および病理的機能調節機構を理解して、研究に必要なデータの収集および分析を行い、自主的に実験計画を立案できる研究者の育成を目指す。	産科学・婦人科学講座
麻酔科学	クリティカルケアで遭遇する様々な侵襲に対する生体応答の病態生理と各種薬剤の影響について理解して、未解決な課題を把握しそれを解決する研究のための方法論を学び研究を遂行し、データを取りまとめ、研究成果を公刊する一連の研究活動を自主的に行い研究者の育成を目標とする。	麻酔科学講座
麻酔薬理学	麻酔薬の薬物動態・薬力学を理解し、どのように個々の患者に対して適切な麻酔を行うかを考える基礎を教える。そしてまた、麻酔薬の効果を脳波や誘発電位で判定する様々な方法を学び、それに基づいてさらに優れた効果判定法を開発できる研究者の育成を目指す。	麻酔科学講座
救急・災害医学	救命救急医療の分野でみられる種々の生体反応について基礎的、臨床的知見を深め、系統的侵襲学の素養を身につけた医学者を育成する。保健衛生行政、消防保安の仕組みを理解し、社会制度としての救急医療体系構築理論を身につけた人材を育成する。	救急医学講座
歯科口腔外科学	歯科医師として口腔内の機能や解剖を十分に理解し、周術期における歯科の役割を理解する。過去の文献を検索し、疾患に対して現在どこまで解明されているかを把握し、今後どのような研究をすべきかを考察し、自ら研究計画を立案する力を養う。また研究解明のためデータ収集や解析を行い、知識や技術・思考力を養う。さらに疾患の本態を解明し、その治療法を確立することを目指す。	附属病院歯科・口腔外科・口腔ケアセンター
臨床検査医学	研究活動を介して、検体検査および生理機能検査におけるフローを理解し、検体品質管理、測定法の原理、検査結果を適正に判断する能力の向上を図る。研究倫理を学び、研究に必要な知識を習得、データの収集および解析をおこない、主体的に実験を計画・実行することが出来る能力を獲得する。新しい検査法の開発だけでなく、研究で習得した知識、技術、理論的思考力を当該分野にフィードバックし、後進の育成をおこなうことが出来る人材育成を目指す。	附属病院臨床検査医学センター
健康科学	健康関連領域としての循環動態、代謝、骨格筋機能、動脈硬化、抗加齢医学、脳機能、行動医学、IT領域につき研究に必要なデータの収集および分析を行い、自主的に実験計画を立案および実行できる研究者の育成を目指す。	附属病院健康科学センター
数理解析学	数理解析学とは、具体的な生命現象を抽象的に数理モデル化し、自然科学の法則に基づく数理的な解析を行い、得られた結果をまた現実の世界にフィードバックすることで、現象解明や改善の方向性を与える等の効果につなげる研究を対象としている。また近年多様化する生物統計学についても研究対象とする。 研究対象に応じて、多岐に亘る数理モデルを選択して数理解析に用いることから、数理モデルの体系的な知識とその取り扱いを講義・演習にて体得する。また実習・論文作成指導では、文献抄読および討論を通じて、独自に研究を推進できる能力を身につける。	数学教室
細胞生物学	細胞接着分子を通して広く細胞間相互作用および神経回路形成について把握し、研究に必要なデータの収集および分析を行い、自主的に実験計画を立案できる研究者の育成を目指す。	生物学教室
医学英語教育学	医師や他の医療従事者が、英語を利用してキャリアの各段階において活躍するために必要なスキルと知識、またその学習法、教授法、評価法について、応用言語学や教育学、パブリケーションサイエンスなどの観点から、研究に必要なデータの収集および分析を行い、自主的に調査計画を立案および実行できる研究者の育成を目指す。	英語教室
医療情報学	医療情報学では、獲得した知識・技術や研究・開発の成果の公開・社会還元を通じて、実際に医療情報学および医療情報技術の進歩の一翼を担うことを体験することで、今後の研究者・技術者としてスタートするために必要な技能と知識の獲得を目指す。また、新しい情報技術体系、診療情報の標準化、情報基盤の改革、自然言語処理の医療への応用等に重点を置き、それらの分野における新技術の開発および医療への応用に関する研究を通じ、医療情報技術の発展を担うことのできる研究者（または技術開発のリーダー）の育成を目指す。	大学情報センター
医療行動科学	心理学の理論と方法論を用いて人の行動の原理を理解し、個人・集団に関わる心理的事象を把握し、医療や心身の健康増進に寄与するようなデータの収集および分析を行い、自主的に研究計画を立案できる研究者の育成を目指す。	心理学教室
医学教育学	世界標準の医学教育学の基礎を理解し、教育実践を通して教育理論について把握し、医学教育研究に必要なデータ収集及び分析を行い、自主的に研究計画を立案できる研究者の育成を目指す。	教育センター

納入金

修士課程

	入学金	学生教育研究 災害傷害保険加入料	授業料 (実習費込、年額)
通常2年制	200,000円	1,750円(2年分)	400,000円
長期履修3年制		2,600円(3年分)	1年目 : 280,000円 2年目以降 : 260,000円

- ・ 授業料は1年分を前期と後期の2回に分けて請求を行います。
- ・ 入学手続時には入学金、学生教育研究災害傷害保険加入料、1年目前期分の授業料の納入が必要です。

博士課程

	入学金	学生教育研究 災害傷害保険加入料	授業料 (実習費込、年額)
通常4年制	200,000円	3,300円(4年分)	500,000円
長期履修5年制		4,050円(5年分)	400,000円

- ・ 授業料は1年分を前期と後期の2回に分けて請求を行います。
- ・ 入学手続時には入学金、学生教育研究災害傷害保険加入料、1年目前期分の授業料の納入が必要です。
- ・ 本学大学院医学研究科修士課程修了者（修了見込者を含む）は、入学金の全額が免除されます。

授業料免除制度

医学研究科では、社会人学生や基礎医学を学ぶ学生などに対し、様々な授業料免除制度を設けています。

修士課程

授業料免除(全額免除)

先端医科学分野、ゲノム医科学分野、医用工学分野の各分野において、申請日の属する年度に公表される日本学生支援機構貸与奨学金（大学院生）の修士・博士課程前期における第二種奨学金の家計基準に該当し、かつ学業成績が優秀な学生を対象とします。

博士課程

社会人学生の授業料免除(全額免除)

社会人学生（医師、歯科医師免許保有者を除く。ただし研修医は含む）であって、申請者の前年（1～12月）の年収が、給与所得者は841万円、給与所得者以外は355万円を超えない者を対象とします。

研究分野別による授業料免除(全額免除)

基礎社会系・教養系研究分野に在籍する者であって、申請者の前年（1～12月）の年収が、給与所得者は841万円、給与所得者以外は355万円を超えない者を対象とします。

その他の制度(以下、博士課程のみ)

ティーチング・アシスタント(TA)制度

大学院の教育研究の充実、振興と学部教育の充実及び後継者の育成を図るために、大学院に在籍しながら本学における教育の補助を行う者に対して助成する制度です。年間最大4万円(令和4年度実績)を支給します。

リサーチ・アシスタント(RA)制度

大学院の教育研究の活性化・高度化を図るとともに、大学院学生の奨学に資することを目的として、本学でのプロジェクト研究等の補助的業務に従事する者に対して助成する制度です。年間最大70万円(令和4年度実績)を支給します。

【問い合わせ先】

関西医科大学 医学部事務部大学院課
〒573-1010 大阪府枚方市新町二丁目5番1号
電話：072-804-0101(代表) FAX：(072)804-2548
Email：gradumed@hirakata.kmu.ac.jp

〔関西医科大学受験生入試サイト〕



